# 『英語（リスニング）』

## 第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

### １　前文

令和８年度共通テストの『英語（リスニング）』の受験者は，本試験が453,425人（昨年度は451,864人）で，受験者全体の約97.82％（昨年度は約97.91％）に当たる。このことは，本テストの実施そのものや，問題の質や難易度，使用される言語材料等が，受験者のみならず，全国の高等学校関係者及び英語教育関係者等，多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。満点は「英語（リーディング）」と同じ100点であり，平均点は54.65点（昨年度は61.31点）であった。

なお，評価に当たっては，15ページに記載の８項目の観点により，総合的に検討を行った。

### ２　内容・範囲

内容・範囲に関しては，「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」を網羅している。題材は受験者にとって場面が想起しやすい身近な話題から，大学の講義のように科学的かつ学術的な題材と幅広く，絵や図表を見て答える問題，講義を聞いて内容をまとめる問題，二者や三者による会話を聞いて内容を把握し，知識を活用したり思考力・判断力を発揮したりして答える問題等がバランス良く出題されていた。

第１問Ａ　短い発話を聞いて，内容に合う英文を選ぶ問題。人前でダンスを発表する人物の心情を話す，子どもが病気になり欠勤する旨を伝える，発話の場面にいない人物のスケート体験の様子を語る，議論中に一旦休憩を挟んでから再開することを提案する等，日常生活に見られる自然なコミュニケーション場面である。

第１問Ｂ　短い発話を聞いて，内容に合う絵を選ぶ問題。像の隣に座る人物の特徴，授業中に文房具を借りようとする場面，道路を安全に横断する方法の提案，亀が産卵し海へ戻る様子が描写されている。

第２問　日本語で示されている場面設定に基づき，短い対話を聞いて，適切なものを選ぶ問題。ソーラーパネルの設置場所と動物の位置関係を説明する，雨の日のゴルフの練習方法を紹介する，興味のあるタンポポの成長過程について話し合う等の場面が描写されている。昨今よく見聞きするソーラーパネルやＶＲ技術などの最新の科学技術にまつわる多様な話題が扱われている。

第３問　短い対話を聞いて，示されている質問に合致する内容を選ぶ問題。本の選び方について尋ねる，休みの過ごし方について話す，スポーツジムで会員証を作る手順について説明を受ける，ホテルチェックイン時のトラブルの原因について確認する，拾った鍵の取扱いについて交渉する，夕食の時間について相談する等，コミュニケーションの必然性が十分意識された場面設定である。

第４問Ａ　絵や表を描写する英文を聞いて，絵を順番に並び替えたり，表中に欠けている情報を補ったりする問題。問18～21は，路線バスの前のドアから乗り，後ろのドアから降りるという行動になじみがない受験者もいたと思われる。並べ替えに不要な絵が１枚あるため，余計な情報に惑わされることなく正確に聞くことが求められる。問22～25は，留学先の学校のキャリアフェアにおいて，４つのテーブルで提供される内容を正確に聞き取ることが求められる。

第４問Ｂ　留学先にある自習場所の特徴を説明する四人の発話を聞き，３つの条件全てを満たすものを選ぶ問題。表にある場所の順で，会話や電子機器の充電の可否，利用時間制限の有無という条件が説明される。自分の基準で条件を設定してそれに合うものを選択するという，日常生活や

社会生活において経験する場面が設定されている。

第５問　大学の講義を基に３つの活動に取り組むという，学習の過程が意識されている問題。経済や食糧問題との関連もあり教科横断的である。活動１では，新しいタイプの水を使った養殖について，従来の方法との比較を聞き，今後の利用価値をワークシートにまとめる。活動２では，講義に関する二人の受講者の短い発話が，講義内容と一致するかどうかを判断する。活動３では，各国の魚の消費量のグラフを見ながらディスカッションを聞き，情報を統合しながら判断する。問 32 は，１文で構成される発話ではあるが，正確にかつ詳細に聞き取り正誤を判断する必要がある。

第６問Ａ　自分が受けるフランス語の授業形態についての対話を聞き，それぞれの主張の要点と最終的な決断を選ぶ問題。会話の中では，多様な授業形態や活動内容について意見交換がなされ，それぞれが異なる授業形態の履修を決断するところが特徴的である。

第６問Ｂ　イヤホン等を装着して音楽を聴くときの注意点についての三者の議論を聞き取る問題。他者への迷惑や事故に遭う危険性について聞きながら，会話が終わった時点での各話者の行動の変容を理解したり，発言の根拠となる図表を選んだりする。複数の意見を正確に把握し，情報を整理する力が問われている。

### ３　分量・程度

出題は例年どおりで，大問が６問，設問が37問の問題構成である。読み上げ回数も変更はなく，第１～２問が２回，第３～６問が１回であった。多様な英語が使用されていたが，音声・スピード共に，おおむね聞き取りやすかった。

第１問Ａ（各英文12語～15語・２回読み）１～２文の短い英文を聞き，概要を正しく把握して最も適切な選択肢（文）を選ぶ問題。昨年度の本試験と比べると，扱われる語彙・表現がやや難化した設問が冒頭に配置された。

第１問Ｂ（各英文11語～16語・２回読み）１～３文の英文を聞き，その英文が表している選択肢（絵）を選ぶ問題。短時間でも識別しやすいよう，選択肢の絵は工夫され，迷わず選べるものとなっており，特に問６～８の正答率はいずれも８割を超えている。

第２問（各対話文24語～34語・各設問６語～７語・２回読み）短い対話の中で適切に難易度が調整されている。問９は，営農型太陽光発電は日本では一部の地域でしか行われていないこともあり，ソーラーパネルの下に羊がいるという設定がやや難易度を上げていた。問11は，前後関係に循環要素が加わり，受験者になじみがない設問である可能性はあったが，理解が難しい表現はなく取り組みやすいものだった。

第３問（各対話文48語～52語・１回読み）発音の特徴の異なる英語が話されているが，対話の場面が明確で聞き取りやすい。若干難しい表現があっても文脈から判断できる程度であり，難易度は標準。

第４問Ａ（問18～21＝86語・問22～25＝85語・１回読み）全体を通して音声ははっきりと聞き取りやすい。問18～21は，景色や行動などに大きな転換がないまま，一貫して路線バスの乗降という限られた場面で説明が展開されているという点で，難易度が高かった。一方，問22～25は語彙の言い換えが自然で，解きやすい問題だった。

第４問Ｂ（四人の各話者＝41語～46語・１回読み）発音の特徴の異なる英語が，適度な速度で話されていて聞き取りやすい。解答時間は長くはないが，出てくる情報を順番に整理，確認していけば正解を導き出すことは難しくない。問題用紙中の表が，解答時の情報整理を助けている。

第５問（問27～31＝280語・問32＝26語・問33＝66語・１回読み）音声もおおむね明瞭でスピードも

標準的であるが，全体的に正答率の低い難問である。講義内容をワークシートにまとめる問28・29は，表現や語彙の高度な吟味が必要で，正答率は１割程度であった。問32は Student Bの発話の aren't の聞き取りにくさの要素が加わっていたため，難易度は高かった。

第６問Ａ（対話文全体＝174語・１回読み）二人の対話ははっきりと聞き取りやすいテンポで話されており，話題も想像しやすいが，問35は，会話の後半部分でJessicaが授業に求める２つの要素に言及し，それらの情報を正確に聞き取ることが必要であったため，やや難しい問題であった。

第６問Ｂ（英文全体＝209語・１回読み）昨年度に続き登場人物が三人の設定が維持され，話者それぞれの主張も明確で標準的な難易度である。問36はTetsuyaの行動の変化の有無をTetsuyaの“That's a relief.”という発話から判断することが求められ，やや難しかった。

## ４　表現・形式

第１問Ａ　短いモノローグを聞き，内容に合う英文を選ぶ設問である。選択肢への言い換えが工夫されており，短いながらも思考力を要する問題となっている。問２については，コミュニケーションの場面に即した言い換え表現が工夫されていたが，表現になじみのない受験者もいたと考えられる。

第１問Ｂ　モノローグに合う絵を選ぶ設問であり，絵の違いを把握した上で情報を適切に聞き取る力が求められる。問６は絵の中の情報量が多く，判断に時間を要した受験者も一部いたと考えられる。

第２問　短いダイアローグを聞き，その内容に合うものを選ぶ設問である。問 11 は並べ替えに循環要素が加わった新しい出題形式であったが，分かりやすく図式化されていた。

第３問　短いダイアローグを聞き，問いに答える形式である。問いと状況が事前に示されており，聞き取りの目的が分かりやすい構成である。イギリス英語での対話も一部含まれていた。

第４問Ａ　話の内容に沿って情報を整理し，絵を並べ替えたり表を完成させたりする形式である。問 18～21 における，一枚余分な選択肢の絵があることにより，より正確な情報の聞き取りが求められるという形式の出題は初めてだった。バスの利用方法の手順について，「やらないこと」を用いて説明しているため，行動の流れをイメージしにくい面がある。加えて，絵に表した場合に変化を表現しにくい，バスの乗降という限られた場面を扱っており，受験者にとって短い時間内での情報整理が難しくなる可能性があった。問 22～25 は，問題用紙の表を活用して情報を整理しながら聞き取る力を測る工夫が見られる。

第４問Ｂ　あらかじめ示された条件を踏まえて，当てはまるものを選ぶという，実生活の中で必要とされる状況がうまく再現されている。また，条件を整理するための表が用意されており，受験者が聞き取る内容に集中できるよう工夫されている。

第５問　問 27～31 は，講義を聞き，その内容の重要な点を整理しながらワークシートを完成させる形式の設問である。問 28，問 29 については，講義者の意図に沿ったワークシートとしては構成がやや分かりにくい。また，各２つの独立した問題を完答とすることの必然性や配点が低いことも検討課題の一つとして挙げられるだろう。問 32 は，聞いた講義の内容を要約して発言させる点に工夫が見られる。しかし，養殖に用いた水を再利用するという講義内の情報が，問 31 と問 33 で重複して問われていた点は課題である。

第６問Ａ　フランス語の授業について，それぞれの学び方の特徴を話し合い，最終的に話者がそれぞれどの形式の授業を選ぶかを判断する問題である。

第６問Ｂ　三人の会話を聞き，要点を把握したり，考えの根拠となる図表を選択したりする形式の問題である。問 37 は，多様な図表を用いて多角的な視点での考察を求める教育活動に合致した問

題である。２つのものを比べながら，rather than などを使って行動の変容を考察する表現が効果的に使われていた。

## ５　まとめ（総括的な評価）

本テストは，実際のコミュニケーション場面に即した文脈の中で，日常的な話題や社会的な話題など，様々な題材から構成された内容であった。音声面では，アメリカ英語やイギリス英語に加え，英語を母語としない話者の発話も含まれており，多様な話者と対話することが想定されるグローバル社会を見据えたリスニング試験であると言える。また，知識・技能を問う問題に加え，まとまりのある内容の話を聞き取って，概要や要点を捉えるなど，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる内容がバランス良く出題されている。

さて，学習指導要領では，コミュニケーションを図る資質・能力を育成するため，言語活動の充実や４技能５領域をバランス良く育成することなどが目標として示されているが，本テストではこうした趣旨を踏まえて各問題が作成されており，教科横断的な視点や協働的な学びという視点を踏まえながら，実際のコミュニケーションの文脈が十分に意識された発話と設問の工夫が，各大問で見られた。

また，技能を統合した問題も多く設定されている。例えば第５問や第６問では，話された内容とグラフデータなど複数の資料を関連付けながら，その意味するところを考察する問題があり，音声による試験の特徴を生かしながら，総合的にものごとを捉える力とそれを支える知識・技能の運用が要求されていた。

本テストの問題内容を踏まえると，高等学校等における今後の英語指導は，思考力・判断力・表現力等の向上を目指した授業改善をより一層推進することが期待される。日頃の授業においては，英語で発話された情報を聞き取り，単に理解するだけではなく，目的や場面，状況などに応じて，他者の意見に配慮しながら自分自身の意見や主張などを理由や根拠とともに伝え合うような学習を積極的に行うなど，豊かなコミュニケーション活動の中で，主体的・対話的で深い学びを実現する指導を充実させたい。

一方で，本テストには，幾つかの課題も見られた。第５問では，限られた時間の中で解くにしては，選択肢の言い換えが難しいことに加え，完答を求める必然性が低いと思われる設問があり，完答による難化に対して配点が低かった。また，解答の根拠となる語が聞き取りにくい設問もあり，全体として正答率を下げる原因となったと考えられる。この点については，難易度のばらつきとの整合性を図りつつ，受験者への負担や，全体の配点のバランスを含め，より一層の検討を望む。

第６問Ａでも見られるように，著しいＡＩ技術の発展に伴って，英語学習においても，受験者がＡＩに触れる場面が増えている。主体的な学習者として，ＡＩを補助・支援ツールとして活用しながら，リアルなコミュニケーションの下で，自らの考えを適切な言葉で相手に分かるように伝える力は今後一層必要になるだろう。本テストにおいては，時事的な題材も含め，様々なコミュニケーションの場面で，受験者が身に付けた知識を結集させながら解答する問題や学習過程を意識した問題が多く出題されるなど，外国語の学び方や指導の仕方にメッセージを与える試験であった。今後も，社会や大学で求められる力に対応すべく問題の在り方を研究されることに期待したい。